

開催日：4月6～7日 開催場所：スピードパーク恋の浦 格式：国内
主催：RASCAL [クラブ登録No.加盟40010]、FMSC [クラブ登録No.加盟40042]、RC-OITA [クラブ登録No.加盟44005]

フォト/西野キヨシ、JAFスポーツ編集部 レポート/JAFスポーツ編集部

「開幕戦からマシンが凄く進化した。チームに感謝したい」。D部門は鎌田卓麻選手がクラス移籍僅か2戦目で強豪達を抑えて初優勝を飾った。



鎌田卓麻 BRZ、D部門移籍2戦めでクラス初優勝

全

日本ダートトライアル選手権は九州福岡のスピードパーク恋の浦で今年も第2戦を迎えた。今年の特長はレースウィークの二日間ともにドライコンディションが保たれたこと。なぜかこれまで雨に祟られることが多かった恋の浦では、当然、歓迎すべきことで、「決勝の2本めの路面は今まで体験したことがない」といった声も全日本レギュラー陣の中から聞かれた。

ただし雨に降られない週末となったことが影響したか、路面のピークは予想以上に早く来た感があり、見た目はタイムが上がるように見えた路面の状態も、ヒート2の中間で耐打ちとなった感があった。結果、後半のSA4クラスか

らはすべて優勝者はヒート1のタイムで逃げ切る形となっている。

PN1クラスは太田智喜デミオがヒート1、ベストタイムを奪い、ヒート2も2秒以上もタイムを詰め、逃げ切りかと思われたが、ラストゼッケンで走った上野倫広選手が0.028秒上回り、昨年に続いて恋の浦2連勝をもち取った。「後半、下に降りてからのテクニカルなセクションはデミオが有利だと思ったので、前半区間で頑張るつもりだったんですが、何とか細かい所でもうまく走れたのが後半巻き返せたことに繋がりましたね。昨年まではタイヤを決めた後も、結構、迷いを持ったままスタートしたりしたんですけど、今年は一旦決めたら、もう後は

タイヤを信じて走るようにしたので、それも良かったと思います」と上野選手は開幕戦欠場の「穴」を即座に埋め込んだことに安堵の表情を見せていた。

今年新設のPN3クラスは、ヒート2、ただ一人、1分58秒台に叩き入れた河田喜美男選手が全日本初優勝を飾った。「好き、というより、相性がいいコース」という恋の浦で念願の勝利を手に入れた河田選手は、「ずっと跳ねっ放しだったけど、グリップする所は凄くするので、そういった所では横にズレないように集中して走りました。修正できたというよりは、ただ気合いで勝てたという感じがですね」と振り返った。

続くN1クラスでも地元福岡の濱口雅昭選手

N1&N2クラス／1.5. N1クラスは地元福岡の濱口雅昭選手が全日本初優勝を達成。**2.** N2で3位入賞の岸山信之選手。**3.** N1で3位入賞の秋竹誠之選手。**4.** 開幕2連勝を飾ったN2矢本裕之選手。**6.** N1古沢和夫選手は2位入賞。**7.** N2北條倫史選手は2位に終わった。





PN1&PN2&PN3クラス／8.11. PN3クラスは中部のベテラン河田富美男選手が待望の全日本初優勝。9. PN1は上野倫広選手が昨年に続いて恋の浦を制した。10. PN2は細木智矢選手が今季初優勝。12. PN2で2位入賞の宝田ケンシロー選手。13. PN1太田智喜選手は僅差の2位。14. 児島泰選手はPN1で3位入賞。15. PN3で3位入賞の河石潤選手。16. PN3で2位入賞の竹本幸広選手。17. PN3で3位入賞の矢野淳一郎選手。



SA1&SA2&SC1&SC2&Dクラス／18. SC2で3位入賞の橋本和信選手。19. Dクラス3位入賞の宮内友秀選手。20. SC1で3位入賞の奥村直樹選手。21. SA2北村和浩選手は3位に甘んじた。22. SA1で3位は地元九州の今村宏臣選手。23. SC2は梶岡悟選手が大差で開幕2連勝。24. SA1は浦上真選手がヒート1のタイムで逃げ切った。25. SA2でも荒井信介選手が逃げ切って開幕2連勝。26. SC1はV3を狙う山崎迅人選手が今季初優勝。27. SA2で2位獲得の稲葉幸嗣選手。28. ヒート1はゴールできなかったSA2黒木陽介選手は2位まで挽回した。29. SC1南義則選手は地元の一戦で殊勲の2位。30. 僅差の2位争いを制したSC2岩下幸広選手。31. D谷田川敏幸選手は0.019秒差で2位。32. D部門初優勝を決め、思わずガッツポーズの鎌田選手。

が全日本本格参戦3年めで待望の初優勝を獲得した。ヒート1ではベストの古沢和夫選手にコンマ1秒差で食らいつき、ヒート2では1分56秒台までタイムを上げてそのまま逃げ切った。

「地元ということで、いつも気持ちが入り過ぎて突っ込み過ぎとあったんで、今回はちょっと冷静に行こうと思ったら、1本めは抑え過ぎてグダグダになってしまって。もう2本めは、余計なことを考えずに、地区戦を走るつもりで自分の走りをするだけ心がけて走りました。3年追って、メンタル的には強くなった気はします。でも、感無量です。涙が溢れて止まりませんでした」と感激の1勝に浸った。

SA2クラスでは開幕戦丸和を制した荒井信

介選手が、ヒート1から、2番手の北村和浩選手を1.4秒もちぎる1分47秒015というスーパーベストをマーク。ヒート2、1本めはマシントラブルに沈んだ黒木陽介選手が、タイムダウン傾向の中、北村選手を凌いで2位に上がるも48秒の壁は破れず。好調荒井選手がヒート1のタイムで開幕2連勝をさらった。

「1本めのタイムはタイヤ(A053)が合ったことが大きかった。乗りやすいというわけではないけど、グリップ感があったからね。2本めは

路面はよくなったけど、意外とタイヤが食わなかった。結果的には1本めからタイムが出せたことが勝因になりましたね」と、完全ドライとなった恋の浦を振り返った。

2リッター4WDターボ主流のクラスではN2クラス矢本裕之、SC2クラス梶岡悟の両選手も開幕2連勝とスタートダッシュを決めている。注目のD部門は、1本め勝負を0.019秒という僅差で谷田川敏幸選手を抑えた鎌田卓麻選手が、移籍2戦目にして早々と勝利をさらった。